

長良小学校プール建設に関する経緯

2013(H25)年 長良小学校の校舎や体育館、共同調理場などを一体的に整備する計画を決定

2020(R2)年2月 新校舎（プール跡地を含む敷地に建設）、新体育館が完成

3月議会 新プール、新公民館の予算が計上された(公民館の2階部分にプールを造るため一体の計画として進められていた)本予算は全会派、無所属議員とも賛成、可決した

5月11日 工事の入札を行うが、入札不調となる

6月23日 新公民館に関して市民協働推進部に教育委員会から方針転換(プール建設を中止し、公民館は建設するが遅くなる)の話があった

7月 教育委員会定例会にてプールのあり方方針承認

方針とは 2017年に市内公共施設の管理に関して定めた総合管理計画に基づいていて、計画では、取組の1つに、施設総量・配置の最適化を上げ、利用度の低い施設やコスト状況の悪い施設等は縮小等に向けて検討と示している。教育委員会は、この計画を根拠に利用が夏場の約2か月に限られ、建て替えの後にも保守点検や上下水道料金といった維持管理費がかさむ学校プールは、計画に基づいて在り方を検討する必要があるとの方針を示していたとのこと。ただし、この方針は正式には決まっておらず、教育委員会は、2018年に学校プールを縮小の対象と捉える方針について検討すると決めたものの、結論については先送りしていた

7～8月 保護者、地元関係者に、プール建設の中止、民間プールの活用、公民館の建設が遅れることなどの説明会を行った。事前にこの説明会が行われることが当局より報告されていたのは地元の3議員。原は、この説明会に参加した保護者から連絡を受け知った(住民説明会5日間、7月13日、17日、21日、22日、8月21日)

9月議会 工事内容の見直しに伴い、工事費を減額する補正予算案が提出された

(国、県の支出金などを含む1億9,381万円の減額)全会派がこの件について質問。この質問について最後の出番となった私は、柴橋市長に「市長は執行機関の責任者であり、議案を提出したのも市長である。議論が成熟していないこの状況を受け、今回の減額補正を取り下げ、議論をすることが必要ではないか」と質したが、市長は「丁寧に説明するよう、教育委員会には指示を出している」と取り下げる考えはないと答弁した

9月24日 「第100号議案令和2年度岐阜市一般会計補正予算（第9号）に対する修正に関する決議」＝建設中止を前提とした減額補正部分を除外する補正予算案の修正案を、全会一致で可決した。建設予算が執行できる状態に戻り、継続審議となった

10月 保護者、地元住民説明会2日間、5、21日

11月4日 文教委員会閉会中継続審査、工事業者アンケート調査結果口頭で説明

維持管理費 プールを建設し50年間使用した場合、1校のプールにつき、イニシャルコスト（建て替え費）約1億8,700万円＋ランニングコスト（維持管理費）約8,700万円 合計約2億7,400万円のライフサイクルコストを要する。年間約574万円。

プールの築年数 長良小を除くすべての小中学校にプールがある。小学校47校、中学校22校中、築30年以上のプールは小学校17校、中学校17校。築50年以上は小学校2校、中学校6校あり、毎年1、2校の改築が必要となる

中核市の状況 約半数の市が、1校1プールではなく様々な施設を利用して水泳事業を実施している

12月14日 市議会最大会派の自民岐阜が建設を推進する決議案（3月議会で建設費を議決していたことから、当初通りに予算を執行することを求めた）をまとめ、文教委員会に提出。全議員の賛同を得て委員会発議となり、本会議に決議が提出され可決。柴橋市長は「議会の意思を踏まえて対応していく」早川教育長は「速やかに手続きに入り、適切に対応する」とし、不調となっていた入札を再度行えるよう模索することになった

2021（R3）年1月 再公告

2月3日 再入札を行い、2社より応札、株式会社 市川工務店が落札

3月議会 長良小学校プール及び長良公民館建築主体工事の工事請負契約締結、3億4,034万円。また「民間プールの活用事業」（長良小学校の2021年の水泳授業を民間に委託）609万4000円（2業者）が計上され、可決した

2022（R4）年3月 新プール、新公民館完成予定。この問題がなければ、予定2021（R3）年5月に完成予定だった